



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社紀文食品

上場取引所 東

コード番号 2933 URL <https://www.kibun.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堤 裕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員グループ統括室長 (氏名) 上野 勝

TEL 03-6891-2600

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	81,770	10.1	1,584	51.1	1,660	42.6	514	73.9
2022年3月期第3四半期	74,266		3,242		2,892		1,968	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 856百万円 ( 47.2%) 2022年3月期第3四半期 1,622百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	22.54	
2022年3月期第3四半期	87.08	

(注) 1. 当社は、2021年3月期第3四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	76,111	14,664	18.8
2022年3月期	63,514	14,182	21.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 14,318百万円 2022年3月期 13,866百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		15.00	15.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,228	6.1	2,219	41.7	1,865	45.1	689	63.7	30.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予測の修正につきましては、本日(2023年2月14日)公表しました「2023年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	22,829,781 株	2022年3月期	22,829,781 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	20 株	2022年3月期	20 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	22,829,761 株	2022年3月期3Q	22,606,180 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
2023年3月期第3四半期連結累計期間	81,770	1,584	1,660	514
2022年3月期第3四半期連結累計期間	74,266	3,242	2,892	1,968

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、様々な価格の上昇に伴うインフレが消費へのリスクとして内在し、地政学リスクも依然として続いております。一方でわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症からの行動制限が解除されたことに伴い回復に向けた動きが顕著に見られるものの、原材料・エネルギー価格の高騰に起因する様々な商品やサービスの価格上昇が止まらず、家計消費の動きも鈍く本格的な経済回復への道筋は不透明な状況が続いております。こうした状況のもと食品業界におきましても、厳しい経営環境が続いております。

当社グループでは、2021年4月よりスタートした中期経営計画において掲げる「成長の加速」「経営効率の改善」「経営基盤の整備」の3つの経営方針に基づき、グループ連結での収益性向上と財務体質改善による『持続的成長サイクルの確立』を目指した取組みを推進し、企業価値の更なる向上に努めてまいりました。また、経営の透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みを構築することを重要な課題と位置づけ、コーポレート・ガバナンスの充実に継続して取り組んでおります。さらに温室効果ガス削減への取組みを初めとする環境負荷低減の活動や、正月おせち料理など和食を中心とする日本文化の次世代への継承など社会貢献に関する取組みを実践しております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上面では、確実に需要を捉えることにより全ての事業セグメントで伸長いたしました。一方利益面では、各事業セグメントで効率化を推進しましたが、特に国内食品セグメントにおいて、想定を超える原材料やエネルギーコストの上昇を価格改定等の対応策で補えず減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高81,770百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益1,584百万円（前年同期比51.1%減）、経常利益1,660百万円（前年同期比42.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益514百万円（前年同期比73.9%減）となりました。

なお、当社グループの売上高・営業利益は、主力商品である水産練り製品・惣菜は冬季におでん・鍋物等に向けての需要が高まることと12月におせち料理関連商品の売上が集中するため、第3四半期に偏重する傾向にあります。前期及び当期における当社グループの各四半期における売上高及び通期の売上高に対する割合、営業利益又は営業損失（△）は次のとおりであります。

（単位：百万円）

	2022年3月期 前連結会計年度				2023年3月期 当連結会計年度			
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
売上高 (通期割合)	20,833 (21.0%)	21,713 (21.9%)	31,719 (32.0%)	24,936 (25.1%)	22,848 (21.7%)	23,940 (22.8%)	34,982 (33.2%)	—
営業利益又は 営業損失（△）	140	42	3,059	567	△70	△715	2,371	—

（注）当連結会計年度の売上高の通期割合については、通期業績予想に対する割合を記載しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(国内食品事業)

国内食品事業では、国内において食品の製造及び販売を行っております。

売上面では、価格改定後も、おでんや鍋の種物として水産練り製品、正月商品が好調に推移しました。水産練り製品は、特にカニカマやちくわ、はんぺんなど主力商品の他、次世代の需要層に向け当社独自の製法を用いたキャラクター蒲鉾「すみっコぐらしかまぼこ」や「ハローキティ ポムポムプリンかまぼこ」が引き続き販売を伸ばしました。また、SNSを活用したプロモーションや、正月商戦に向けた特設ウェブサイトでの情報発信も奏功しました。一方で、内食需要の特需的な動きが鈍化した惣菜市場の環境変化により、中華惣菜や麺状商品は対前年比で減少しました。正月商品は、蒲鉾や伊達巻などの主力商品に加え、準備の時短・簡便につながるセット商品が好調に販売を伸ばし、前年を上回る結果となりました。さらに商事部門でも、取扱い商材が好調に推移し売上が伸長しました。

利益面では、引き続き原材料や資材、エネルギーなどのコスト上昇が想定以上の高水準で継続しており、この対策として2022年2月に続き8月29日店着分から一部の通常商品及び正月商品に対する価格改定を実施したものの、コスト上昇分は吸収しきれませんでした。

この結果、当セグメントの売上高は58,440百万円(前年同期比7.9%増)となり、セグメント損失は191百万円(前年同期はセグメント利益1,791百万円)となりました。

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント損失(△)
第3四半期連結累計期間	54,180	1,791	58,440	△191

(海外食品事業)

海外食品事業では、海外において食品の製造及び販売を行っております。

売上面では、中国市場での経済活動の停滞が継続する一方、欧米や東南アジアの市場では、カニカマを中心とした当社グループ製の水産練り製品に加え、農畜産品や惣菜など仕入商材の販売も拡大しました。また、米国では「Healthy Noodle(糖質0g麺)」が、引き続き順調に販売を伸ばしました。

利益面では、売上高が大きく増加したことと、コンテナ不足によるフレート代の高騰が解消に向かったことに伴い増益となりました。

この結果、当セグメントの売上高は9,990百万円(前年同期比43.3%増)となり、セグメント利益は1,117百万円(前年同期比43.4%増)となりました。

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
第3四半期連結累計期間	6,969	779	9,990	1,117

(食品関連事業)

食品関連事業では、国内において食品の運送、その他食品に関連した事業を行っております。

売上面では、当事業セグメントの中心である物流事業において、行動規制終了に伴い特に12月商戦での外食・百貨店・駅ビル向けの物量の回復が顕著となり、売上増となりました。

利益面では、物流センターでの電力費が依然として想定以上に増加しているものの、料金改定、配送効率及び業務効率の向上に向けた取組みが奏功しました。

この結果、当セグメントの売上高は13,339百万円(前年同期比1.7%増)となり、セグメント利益は775百万円(前年同期比9.4%増)となりました。

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
第3四半期連結累計期間	13,116	708	13,339	775

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は76,111百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,597百万円増加しました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ12,190百万円増加し、40,089百万円となりました。これは主に12月のおせち料理関連製品の売上等により受取手形、売掛金及び契約資産が10,619百万円増加、主原料の調達により原材料及び貯蔵品が2,035百万円増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ407百万円増加し、36,022百万円となりました。これは主に退職給付に係る資産が775百万円増加したことによるものです。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は61,447百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,115百万円増加しました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ12,678百万円増加し、39,776百万円となりました。これは主に主原料等の調達増加により支払手形及び買掛金が4,030百万円増加、運転資金の調達により短期借入金が7,201百万円増加、「その他」に含まれる未払費用が1,044百万円増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ563百万円減少し、21,670百万円となりました。これは主に長期借入金の返済により730百万円減少、「その他」に含まれるリース債務が316百万円減少した一方で、繰延税金負債が335百万円増加したことによるものです。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は14,664百万円となり、前連結会計年度末に比べ482百万円増加しました。これは主に為替換算調整勘定が689万円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は18.8%（前連結会計年度末は21.8%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日の「2022年3月期 決算短信」で公表した通期の連結業績予想を修正することを2023年2月14日付で公表いたしました。

売上面では、国内食品事業の需要増と価格改定効果による押し上げ、海外食品事業及び食品関連事業の堅調な推移により、前回発表予想を上回る見込みです。

しかしながら利益面については、国内食品事業での想定を超える原材料・エネルギー等のコスト増が大きく影響し、さらには海外食品事業で2022年末に向け米国内流通企業の在庫調整、中国の公衆衛生政策に起因する市場混乱の影響を受けることから、営業利益、経常利益、及び親会社に帰属する当期純利益は、前回発表予想を下回る見込みです。

当期の第4四半期及び来期2023年度に向けまして、国内食品事業では2023年2月下旬より一部の商品の価格改定を実施いたします。また、今後落ち着きを取り戻すと想定する魚肉すり身などの原材料調達の安定化や、生産や配送など各工程の効率化の向上に努めてまいります。海外食品事業では、市場動向に対応した販促活動を展開し、着実に需要を取り込む活動を進め、当社グループ全体での収益力強化に取り組んでまいります。

なお、この修正に伴う期末配当予想（16円）の変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### （1）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,633,941	6,381,987
受取手形、売掛金及び契約資産	10,226,328	20,845,569
商品及び製品	4,950,570	5,829,499
仕掛品	269,530	196,506
原材料及び貯蔵品	3,833,515	5,868,802
その他	996,139	992,025
貸倒引当金	△10,573	△24,800
流動資産合計	27,899,452	40,089,589
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,670,539	5,458,401
機械装置及び運搬具（純額）	1,693,858	1,767,810
土地	5,823,744	5,849,467
その他（純額）	3,954,714	3,765,571
有形固定資産合計	17,142,856	16,841,251
無形固定資産	758,240	623,306
投資その他の資産		
投資有価証券	1,963,258	1,963,795
退職給付に係る資産	14,473,589	15,248,708
繰延税金資産	101,563	161,786
その他	1,176,657	1,185,154
貸倒引当金	△1,600	△1,600
投資その他の資産合計	17,713,468	18,557,845
固定資産合計	35,614,565	36,022,403
資産合計	63,514,018	76,111,993

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,540,607	12,571,464
短期借入金	3,785,338	10,986,963
1年内償還予定の社債	760,680	697,080
1年内返済予定の長期借入金	7,973,341	8,023,283
未払法人税等	405,738	291,913
賞与引当金	810,888	546,760
その他	4,821,377	6,659,339
流動負債合計	27,097,971	39,776,803
固定負債		
社債	1,514,320	1,610,810
長期借入金	11,712,481	10,982,039
繰延税金負債	4,403,888	4,739,563
退職給付に係る負債	165,827	194,988
資産除去債務	308,757	311,249
その他	4,128,706	3,832,193
固定負債合計	22,233,981	21,670,843
負債合計	49,331,953	61,447,646
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,368,788	6,368,788
資本剰余金	1,942,988	1,942,988
利益剰余金	5,158,630	5,330,728
自己株式	△33	△33
株主資本合計	13,470,374	13,642,471
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	193,969	167,944
繰延ヘッジ損益	20,661	△48,805
為替換算調整勘定	△602,880	86,986
退職給付に係る調整累計額	784,230	470,208
その他の包括利益累計額合計	395,981	676,333
非支配株主持分	315,709	345,541
純資産合計	14,182,065	14,664,346
負債純資産合計	63,514,018	76,111,993



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	74,266,748	81,770,683
売上原価	56,529,431	64,699,351
売上総利益	17,737,317	17,071,332
販売費及び一般管理費	14,495,137	15,486,605
営業利益	3,242,179	1,584,726
営業外収益		
受取利息	268	1,794
受取配当金	35,584	37,010
持分法による投資利益	50,255	57,167
為替差益	-	396,334
その他	44,528	39,784
営業外収益合計	130,637	532,091
営業外費用		
支払利息	404,619	420,648
その他	75,442	35,652
営業外費用合計	480,061	456,301
経常利益	2,892,755	1,660,517
特別利益		
固定資産売却益	1,147	-
投資有価証券売却益	20,944	-
特別利益合計	22,092	-
特別損失		
固定資産除売却損	9,673	5,988
減損損失	42,662	62,916
特別損失合計	52,336	68,905
税金等調整前四半期純利益	2,862,511	1,591,612
法人税、住民税及び事業税	415,854	549,745
法人税等調整額	413,359	459,071
法人税等合計	829,213	1,008,816
四半期純利益	2,033,297	582,795
非支配株主に帰属する四半期純利益	64,832	68,251
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,968,464	514,544

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）
四半期純利益	2,033,297	582,795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△57,418	△26,603
繰延ヘッジ損益	△12,053	△69,466
為替換算調整勘定	△45,718	676,446
退職給付に係る調整額	△304,728	△320,257
持分法適用会社に対する持分相当額	9,099	13,685
その他の包括利益合計	△410,820	273,804
四半期包括利益	1,622,477	856,599
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,563,796	794,896
非支配株主に係る四半期包括利益	58,681	61,703

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第3四半期連結会計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

当社は、2021年4月13日に東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。上場にあたり、2021年4月12日を払込期日とする公募増資（ブックビルディング方式による募集）による新株式3,000,000株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ1,609,500千円増加しております。また、2021年5月12日を払込期日とする第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出し）による新株式621,600株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ333,488千円増加しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が6,368,788千円、資本剰余金が1,942,988千円となっております。

当第3四半期連結会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内食品事業	海外食品事業	食品関連事業			
売上高						
外部顧客への売上高	54,180,892	6,969,557	13,116,298	74,266,748	-	74,266,748
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,061,227	3,894,067	5,154,568	11,109,863	△11,109,863	-
計	56,242,120	10,863,625	18,270,866	85,376,612	△11,109,863	74,266,748
セグメント利益	1,791,047	779,370	708,789	3,279,207	△37,028	3,242,179

(注) 1 セグメント利益の調整額△37,028千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「国内食品事業」及び「食品関連事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上してあります。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、「国内食品事業」41,126千円、「食品関連事業」1,536千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内食品事業	海外食品事業	食品関連事業			
売上高						
外部顧客への売上高	58,440,787	9,990,058	13,339,837	81,770,683	-	81,770,683
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,996,799	4,466,810	5,190,341	11,653,952	△11,653,952	-
計	60,437,587	14,456,869	18,530,179	93,424,636	△11,653,952	81,770,683
セグメント利益又は損失（△）	△191,487	1,117,661	775,250	1,701,424	△116,698	1,584,726

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△116,698千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「国内食品事業」及び「食品関連事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、「国内食品事業」62,184千円、「食品関連事業」732千円であります。